

災害情報で命を救う

- (1)進展する災害情報
- (2)なぜ避難しないのか
- (3)防災教育の難しさ

情報学環 附属総合防災情報研究センター
田 中 淳

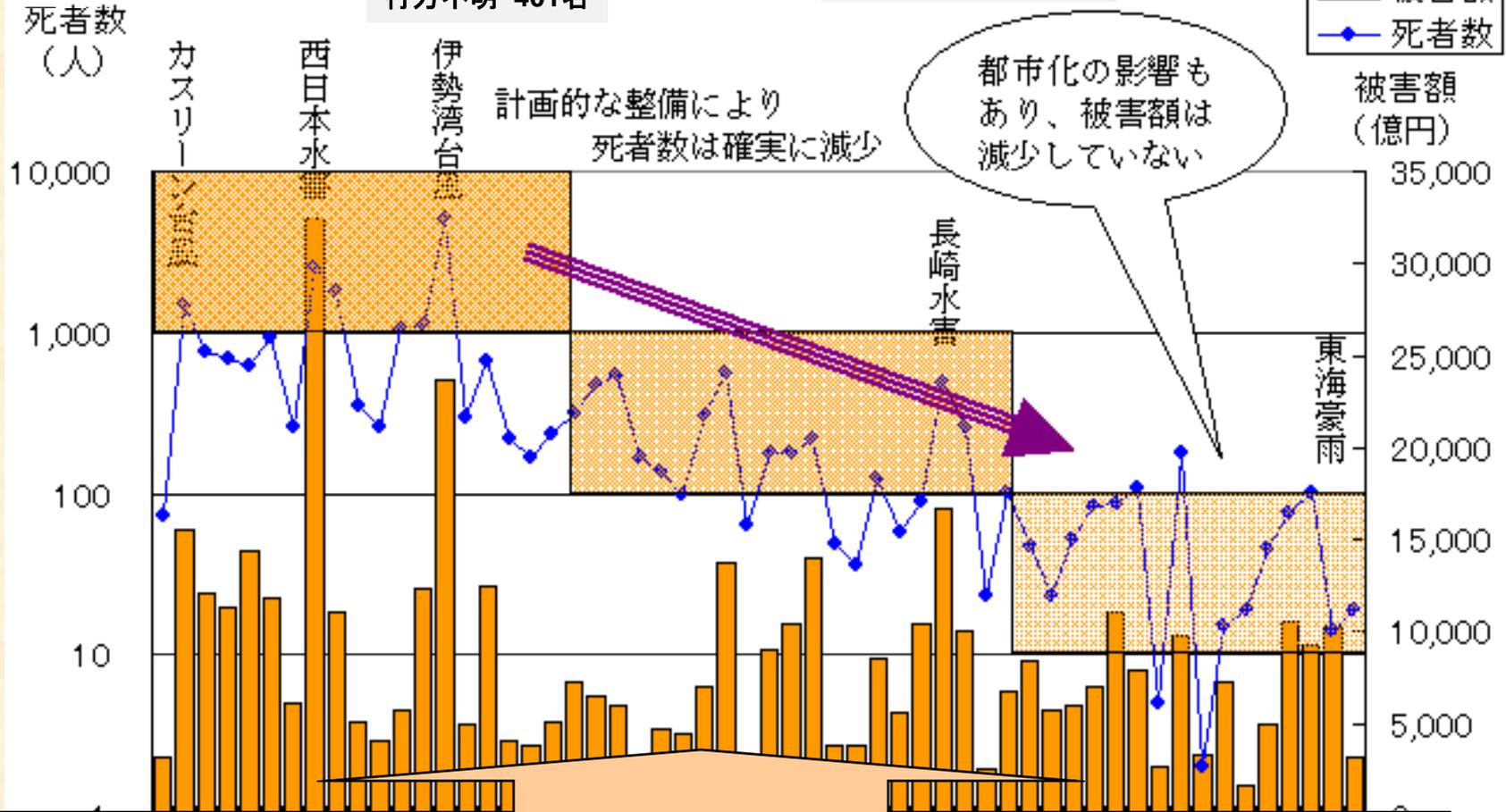
日本の水害（戦後）

1947カスリーン台風
死者 1,077名
行方不明 853名

1959伊勢湾台風
死者 4,697名
行方不明 401名

1982長崎水害
死者行方不明299名

2000東海豪雨水害
死者行方不明 10名



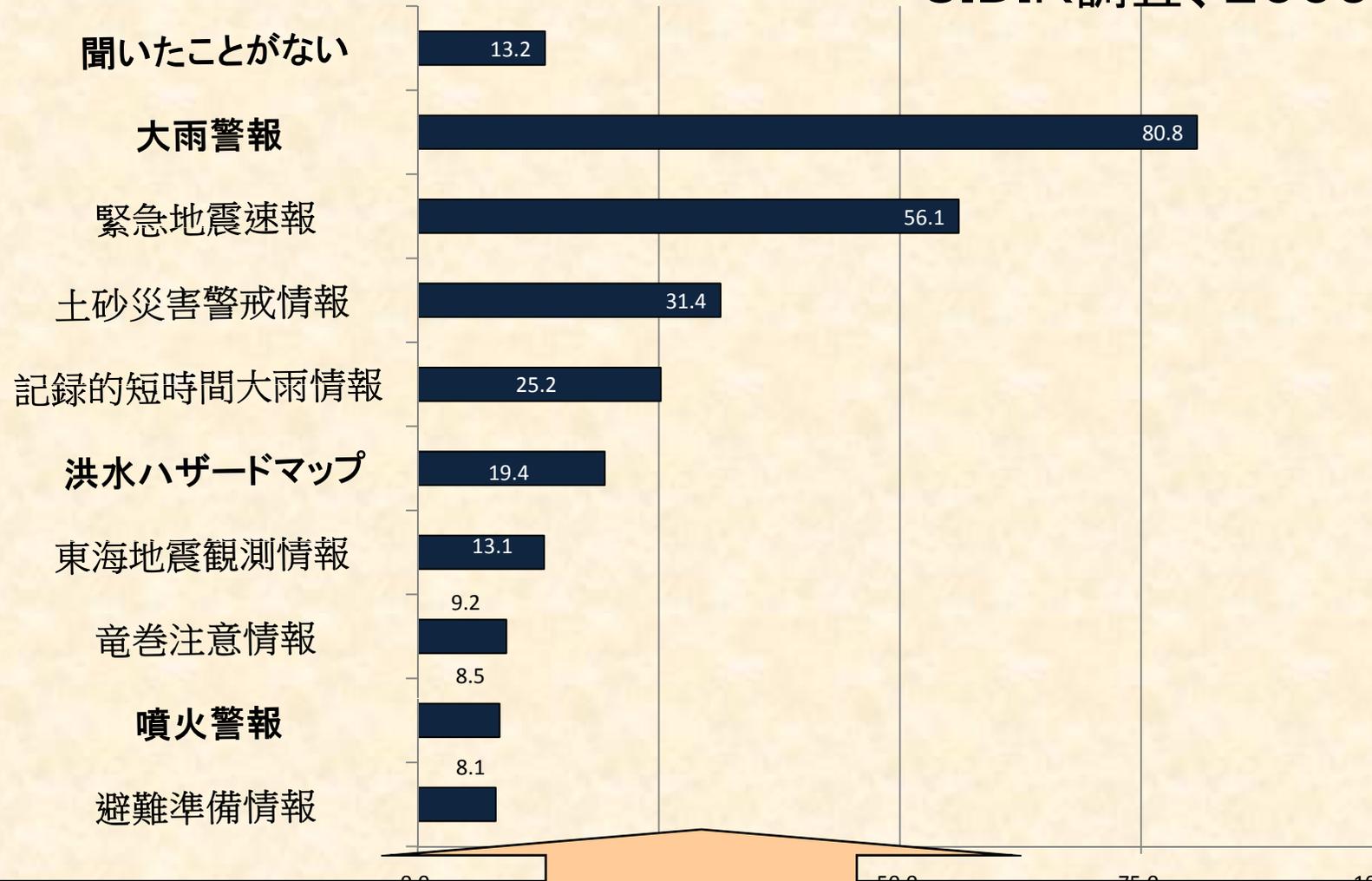
施設整備と情報提供の結果

進展する災害情報

- 緊急地震速報
- 地震発生可能性の長期評価
- 噴火警報
- 気象予警報の市町村化
- 土砂災害警戒情報
- 竜巻注意情報
- 洪水予報
- ハザードマップ……

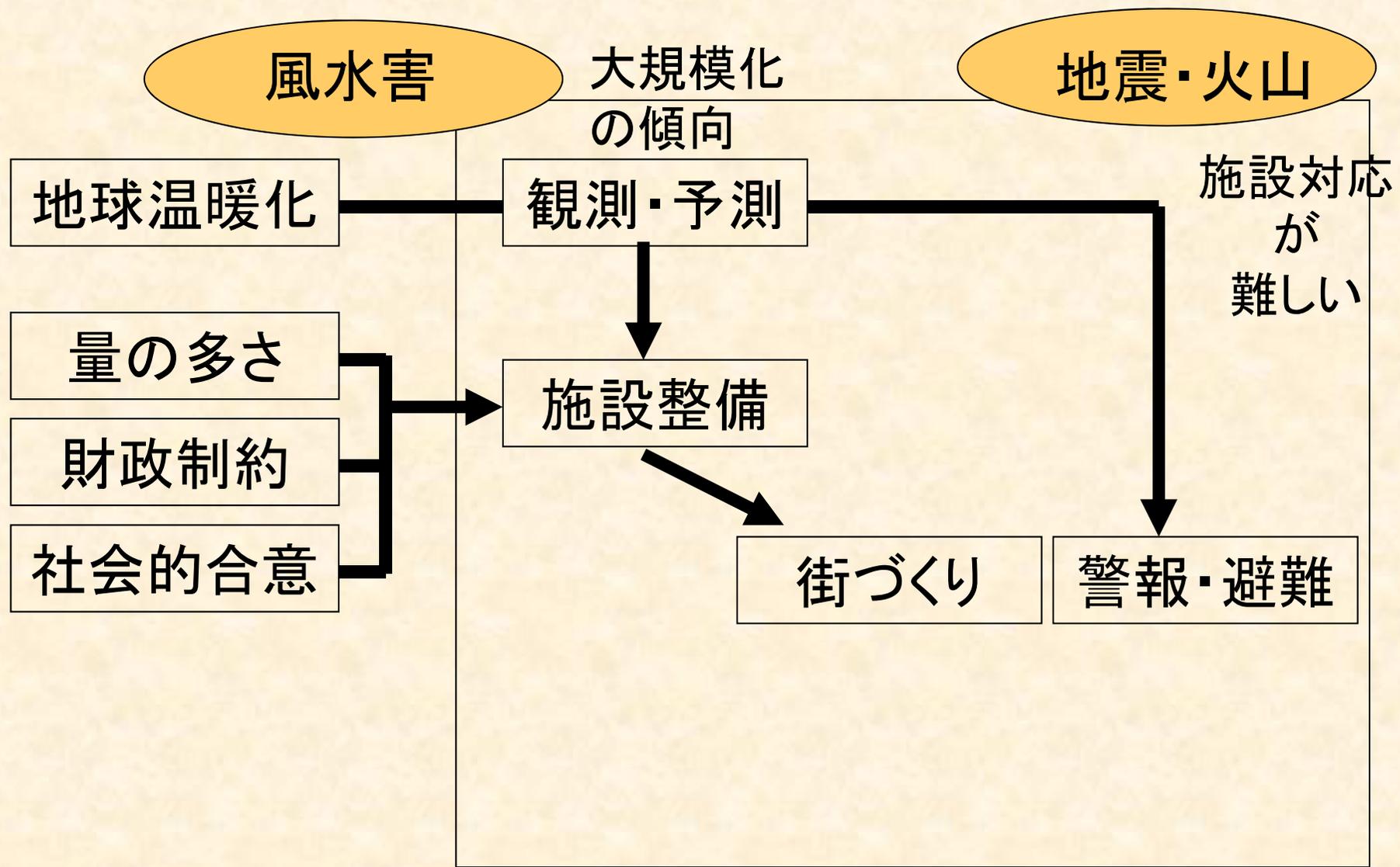
気象情報等災害情報で聞いたことがあるもの

CIDIR調査、2009

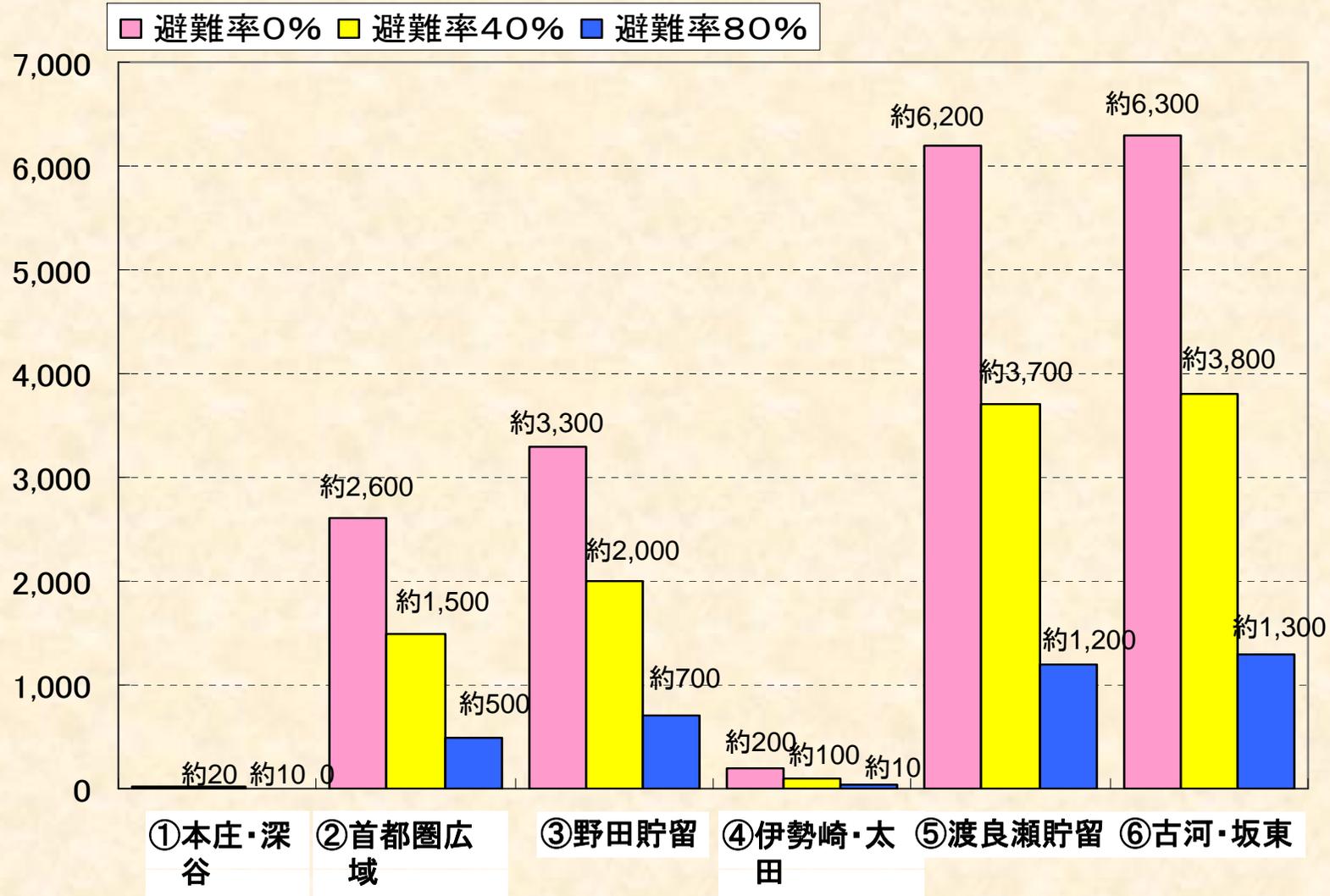


ますます進展する情報と受け手の意識との乖離

なぜ、今、情報か

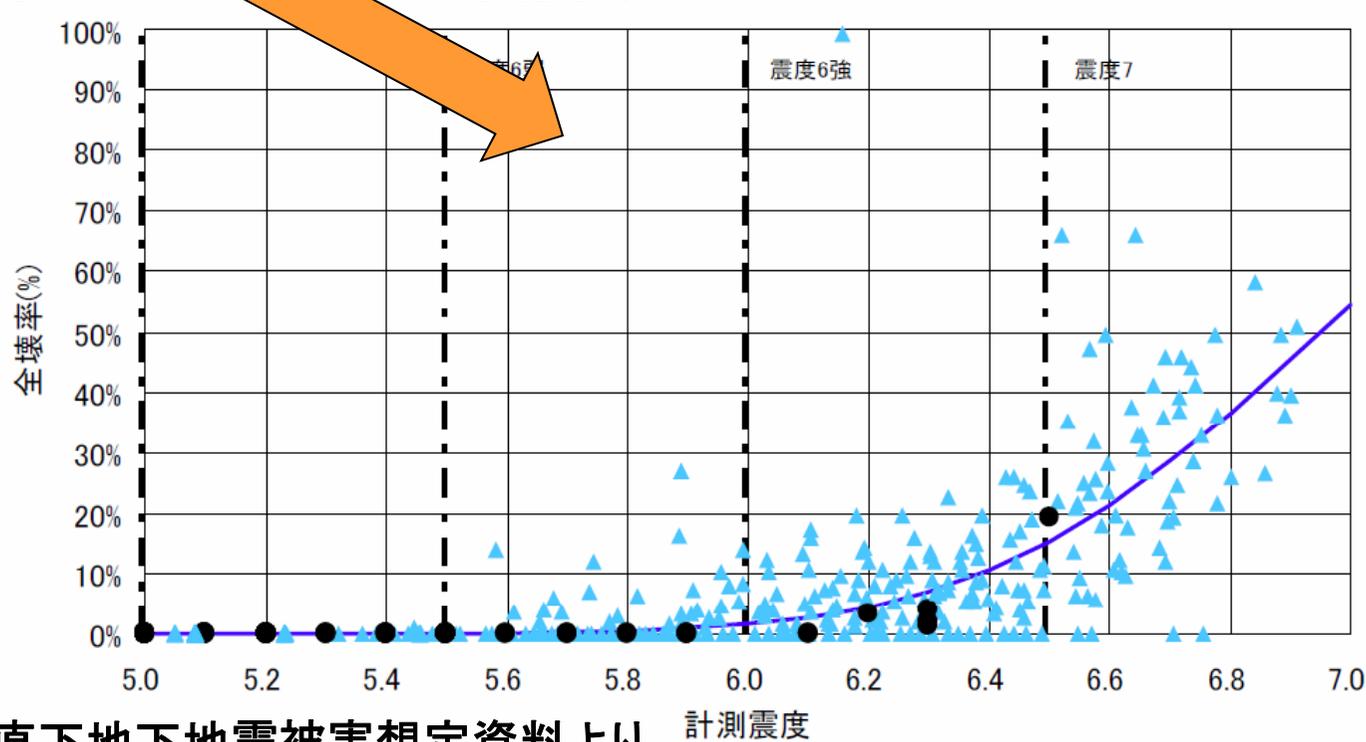
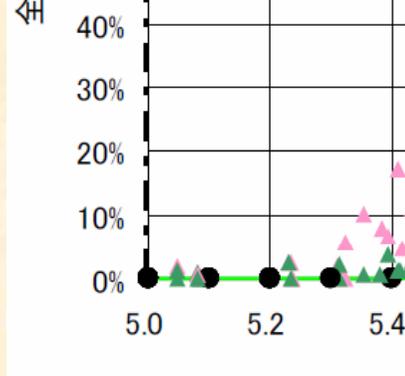
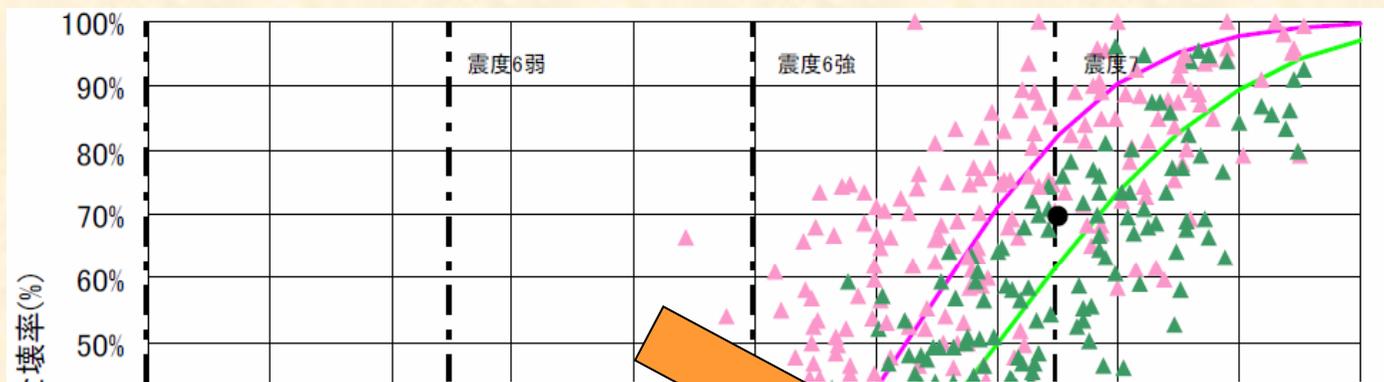


死者数想定



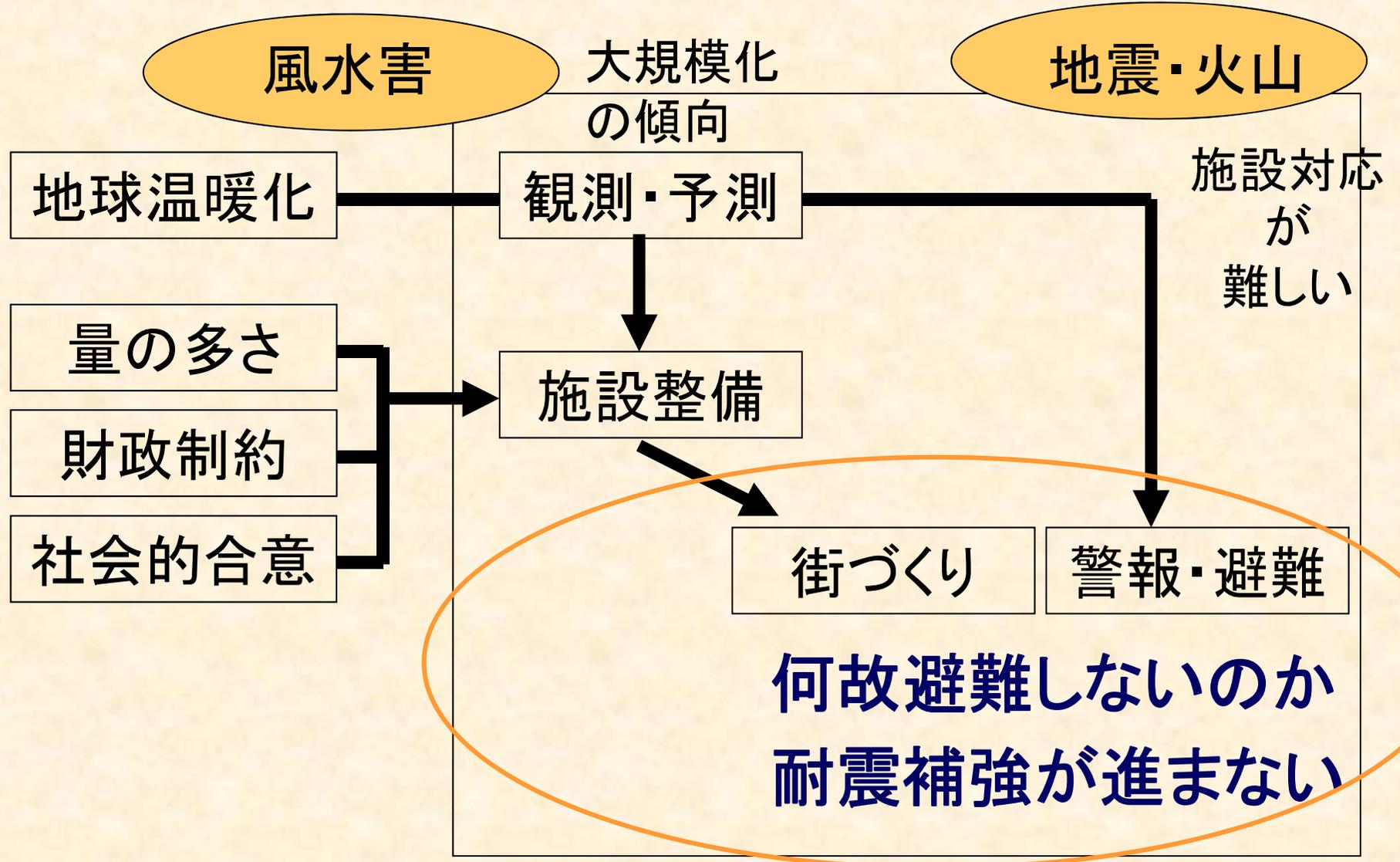
内閣府 中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」資料

どうしたら耐震化を進められるか

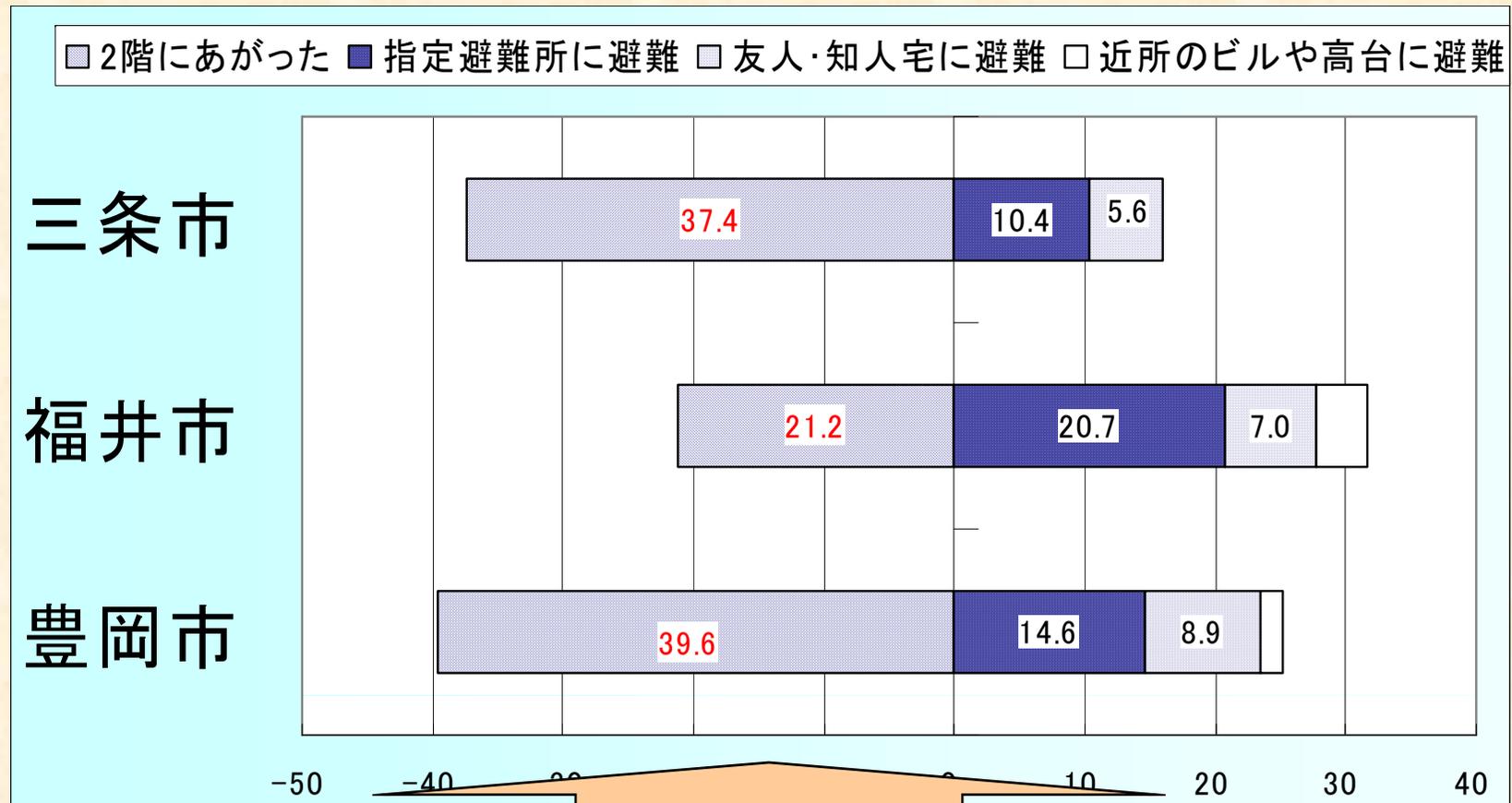


中央防災会議首都直下地下地震被害想定資料より

しかし、情報には課題が



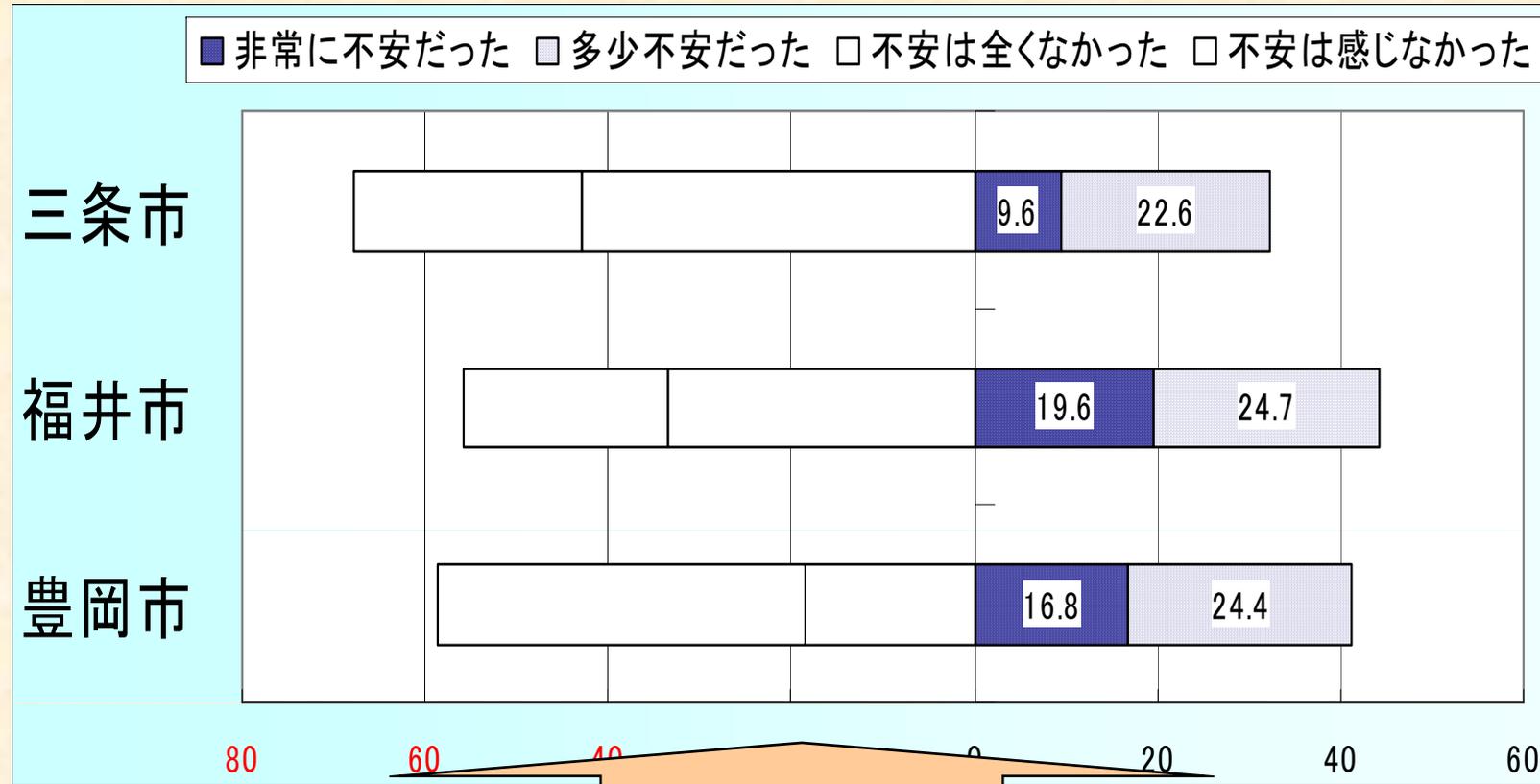
人はなぜ、避難しないのか？



結果的には、情報だけでは避難しない

廣井研調査、2004

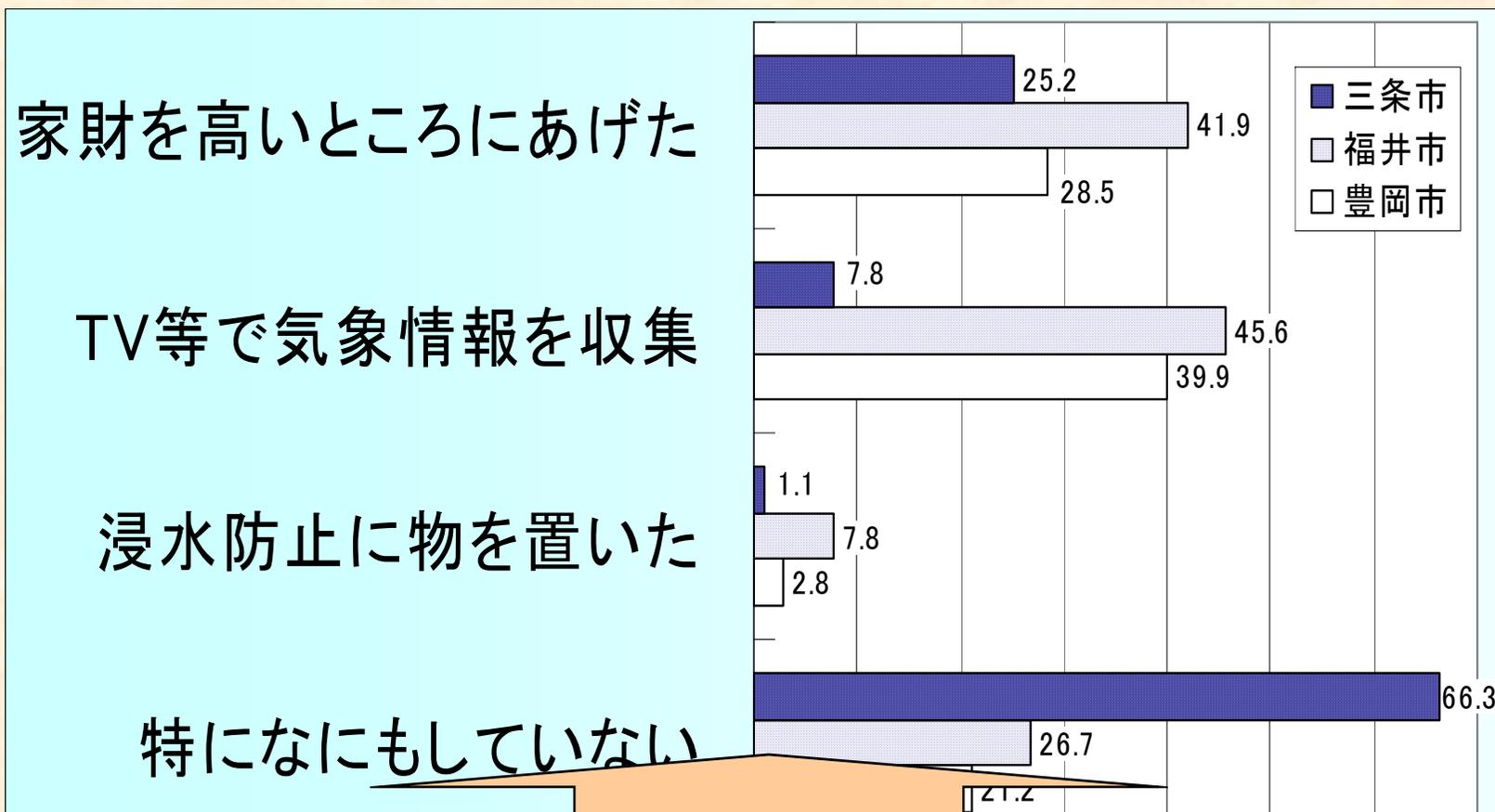
災害発生前の気持ち



不安を感じた人も、3から4割

廣井研調査、2004

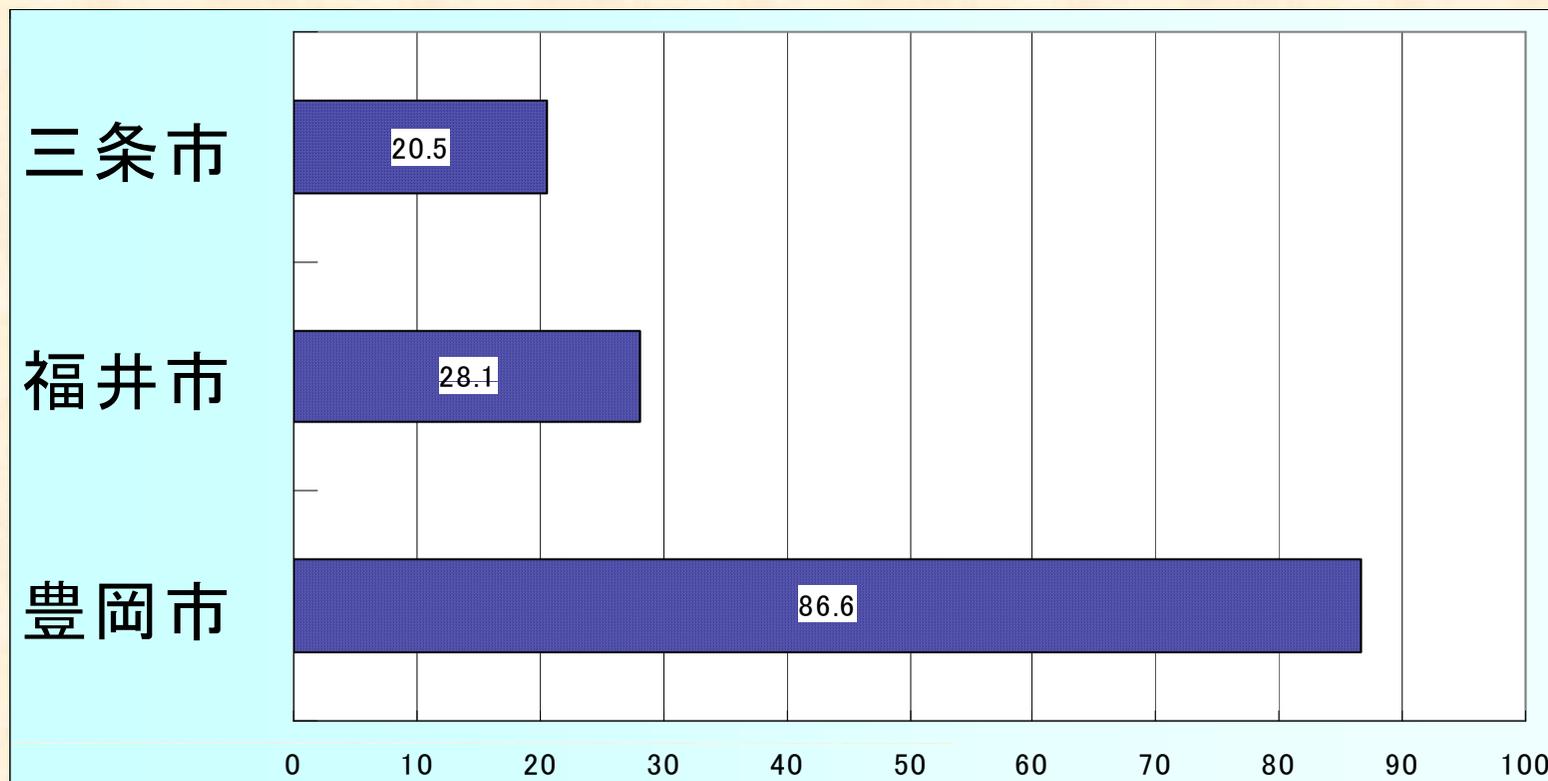
事前の防災行動



防災行動をとっても、避難には至らない。

廣井研調査、2004

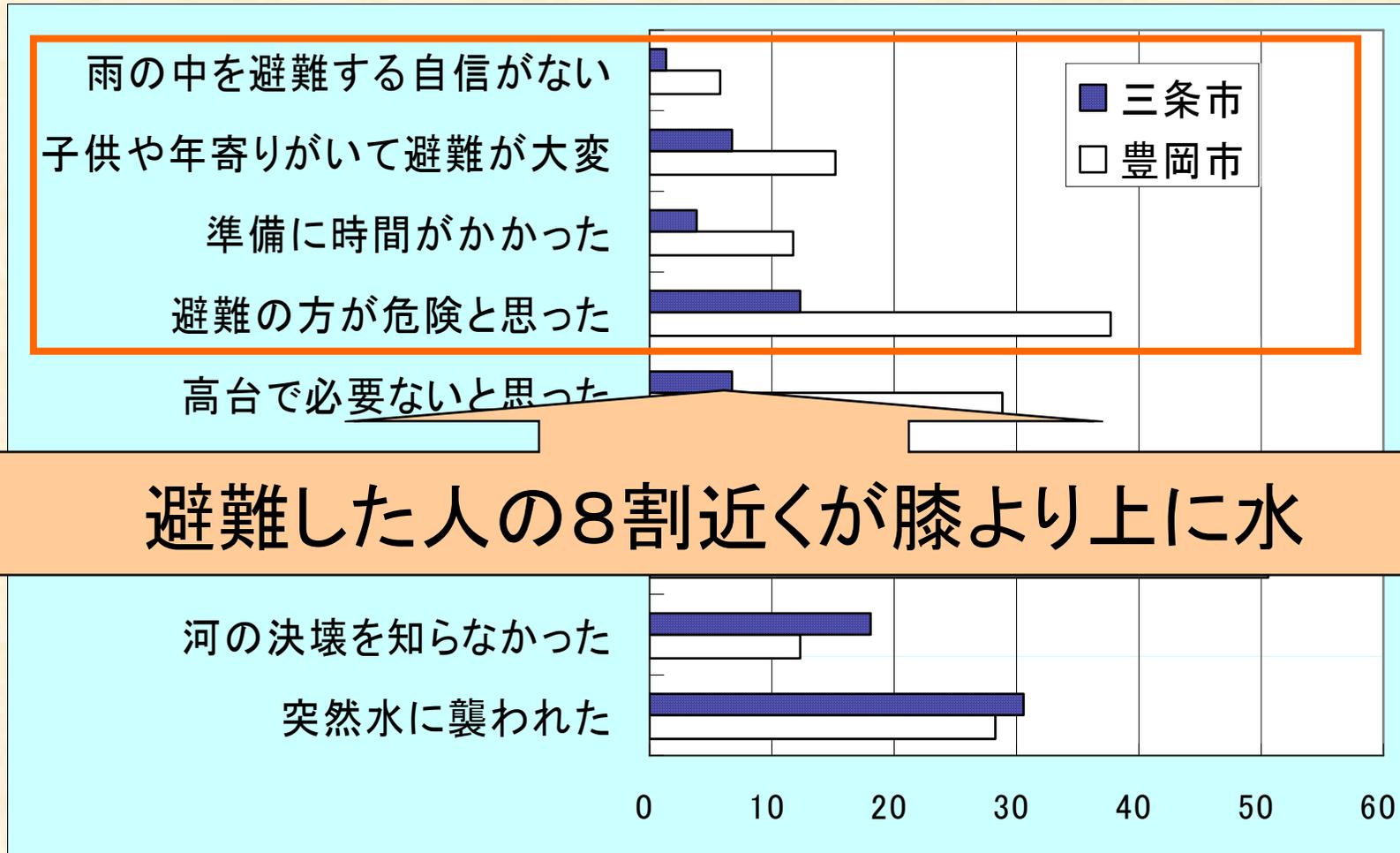
避難勧告事前入手率



避難勧告・指示はすぐには伝わらない

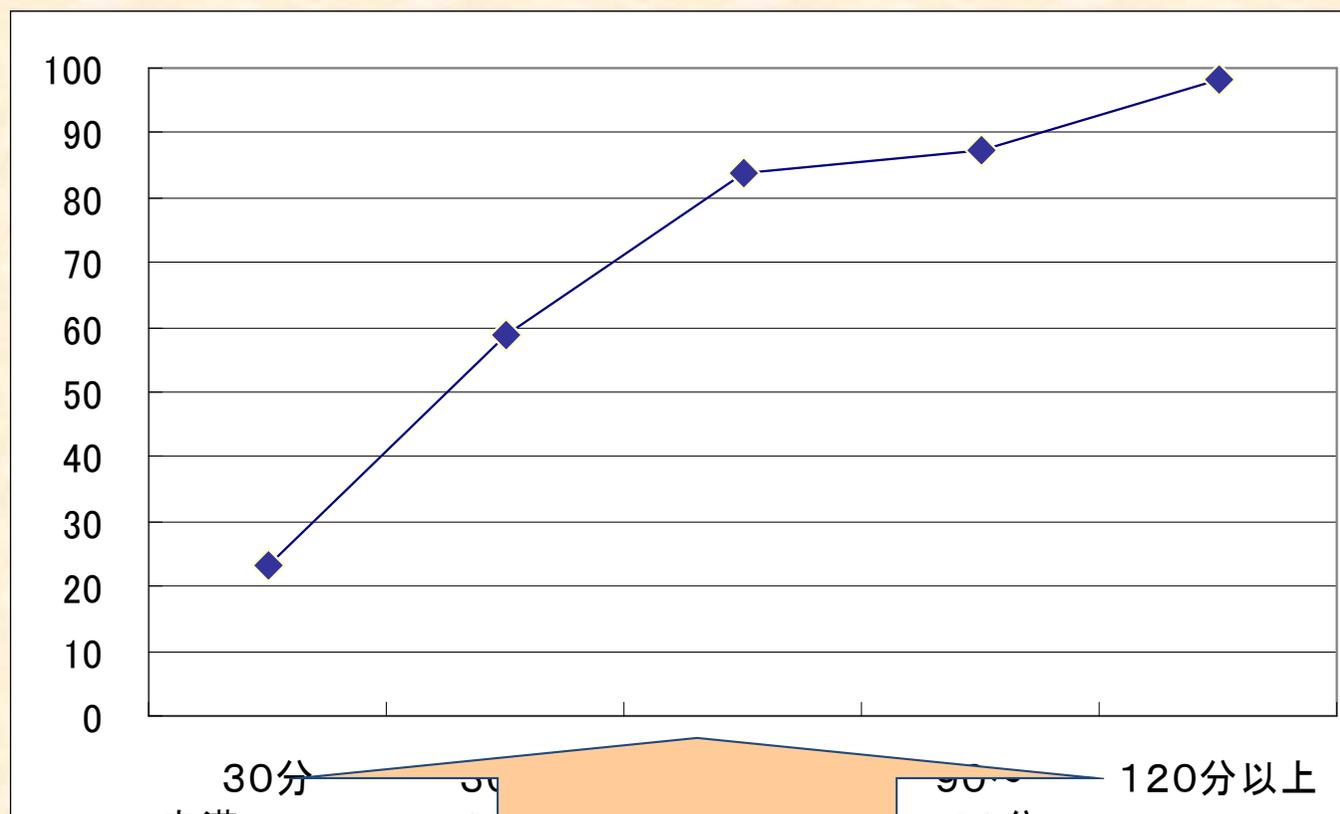
廣井研調査、2004

避難しなかった理由



廣井研調査、2004

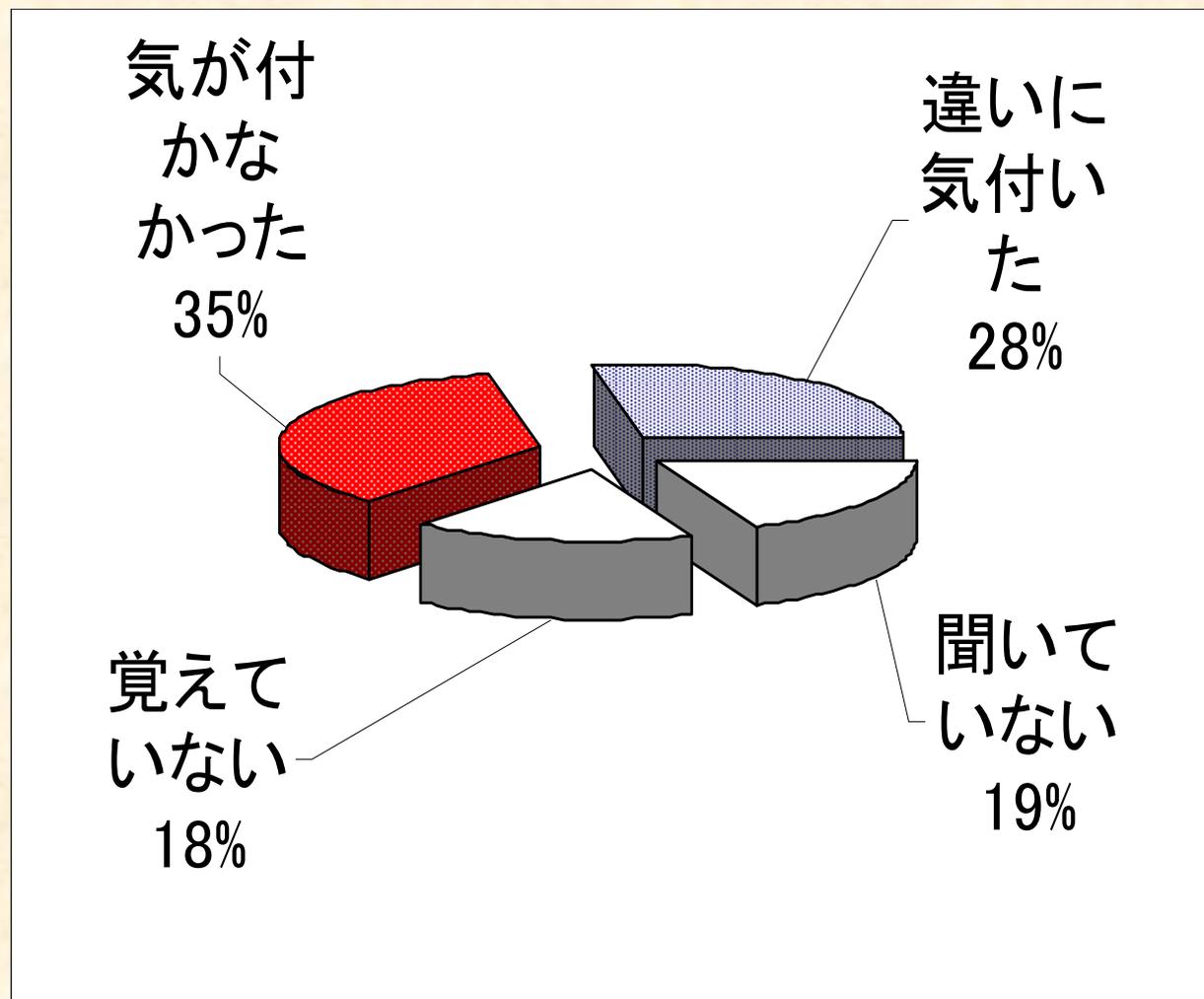
避難を決心してから実行まで



平均93分もかかる。

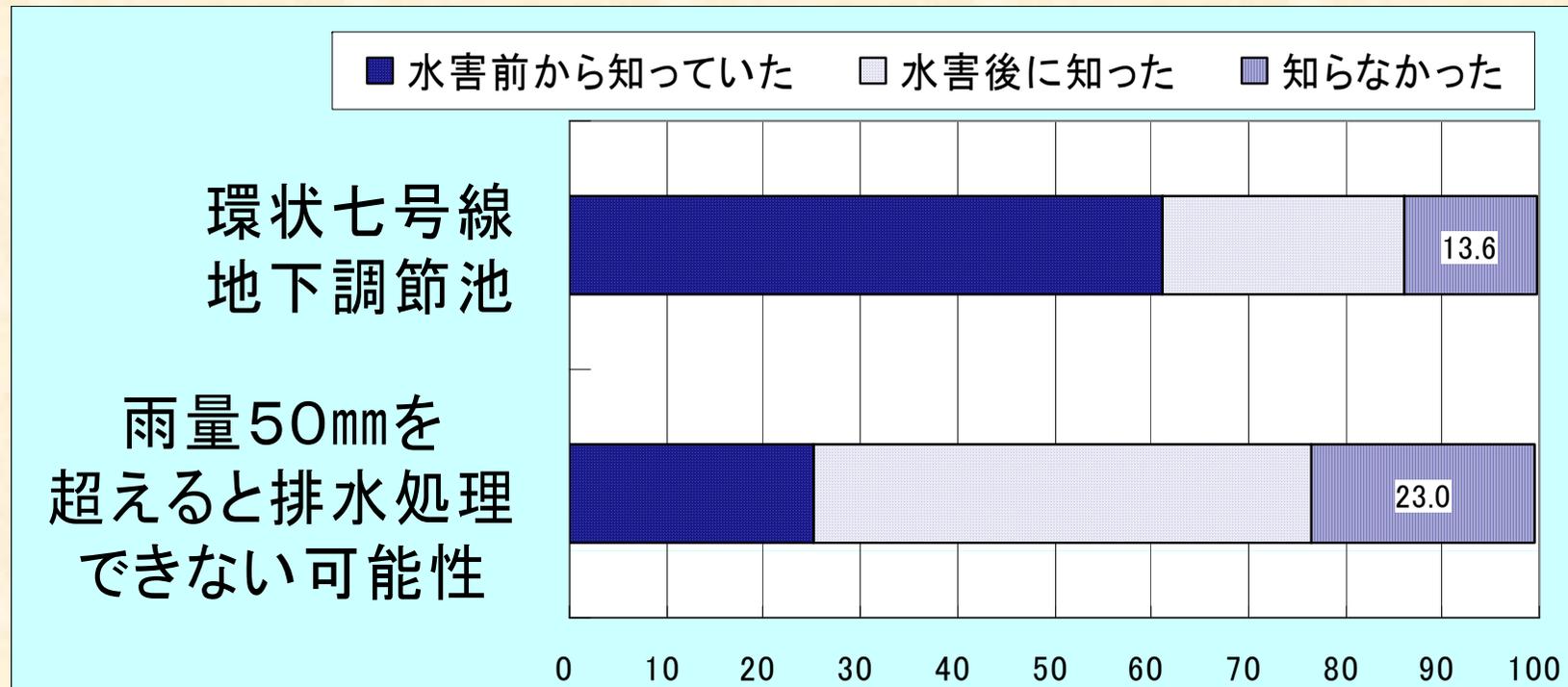
廣井研調査、2004

時間雨量と累積雨量の違い



(国土交通省／東京都との共同調査)

対策基準50mmは3/4が知らない。 調節池の効果も過剰期待

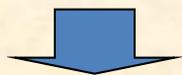


42%が、地下調節池の整備で「氾濫しなくなる」と思っていた。

情報から危険性を読み取る知識が不足。(調査)

避難できなかった

「避難勧告を出したのに、避難しない」



実態：(1)避難勧告が届いていない
(2)避難の判断が間に合わない
(3)危機感が伝わっていない

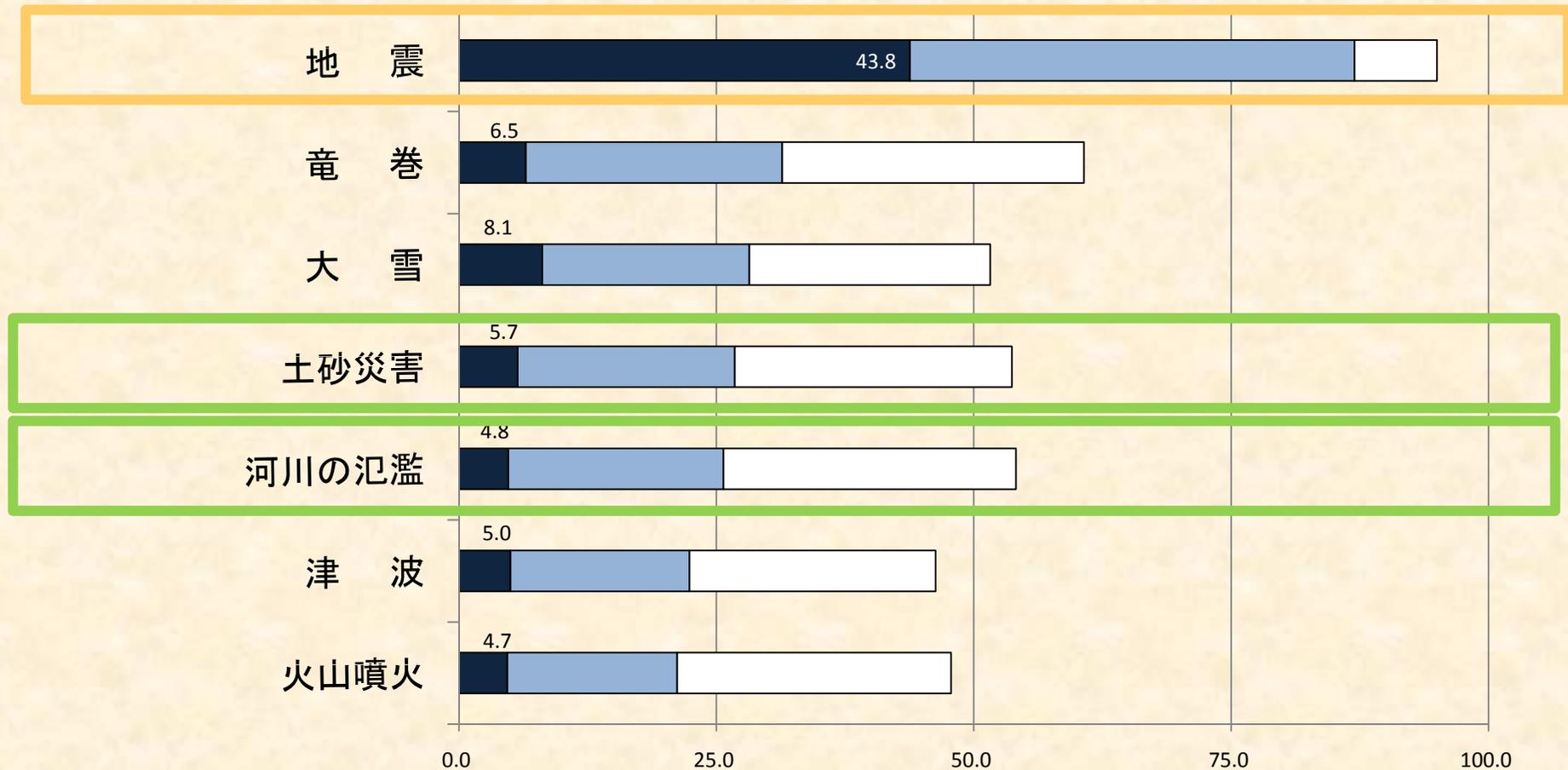


- ・メディア環境の整備
- ・行動と結びついた情報理解

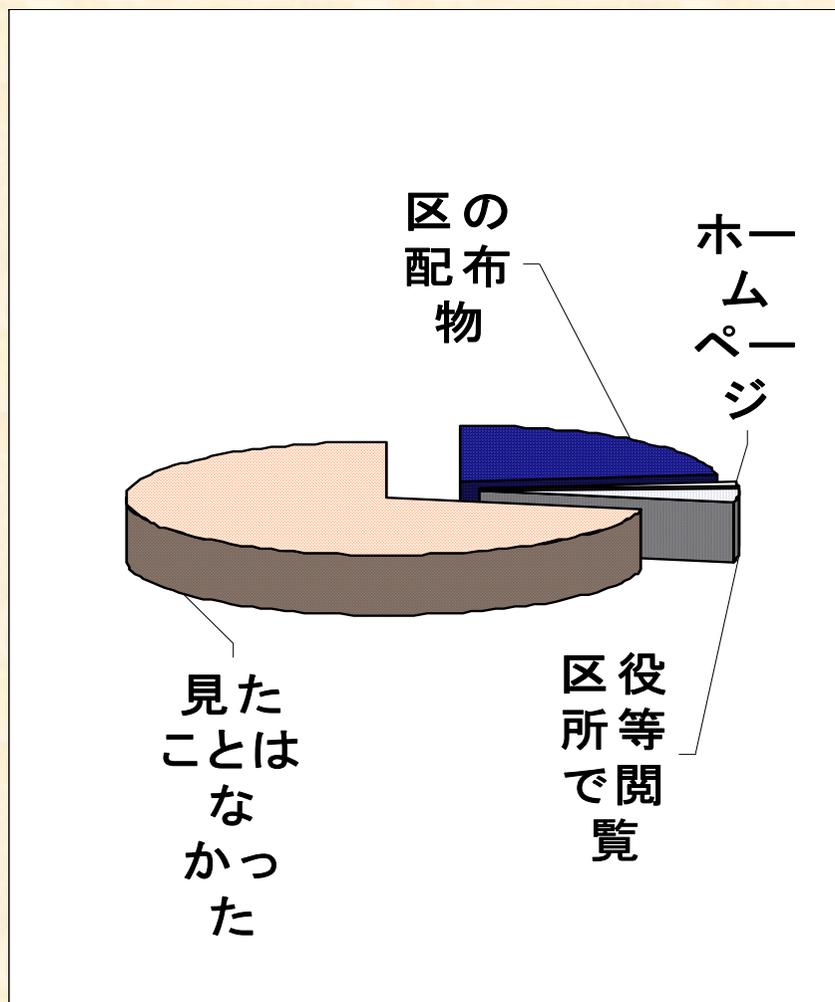
} 事前の準備

自然災害の中で不安を感じるもの

■ 非常に不安を感じる ■ やや不安を感じる □ どちらとも言えない



7割がハザードマップを見ていない。



・ハザードマップを見たことがない人は、72%。

・見た人の52%は「自分の家が安全かどうか確認」できた。

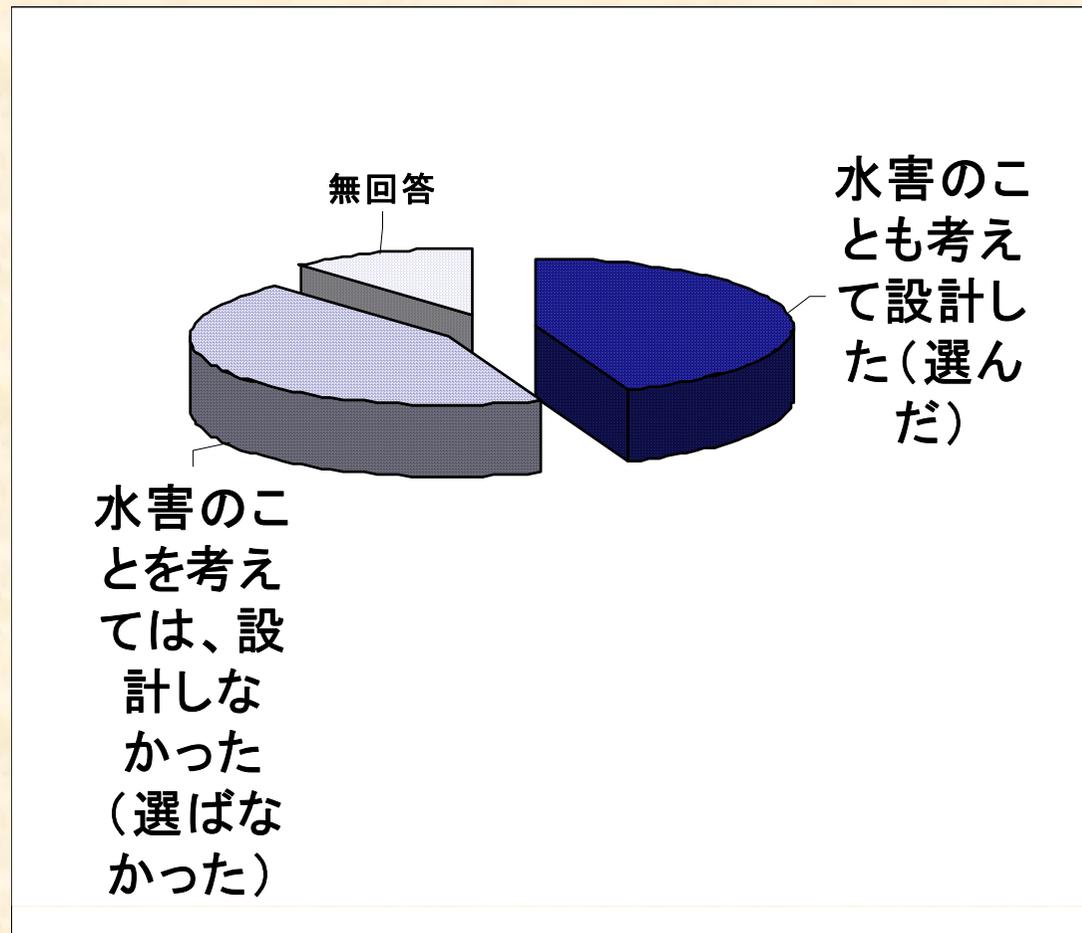
・26%は「水害についての知識」を得られた。

・しかし、

水害時に見た人は4%

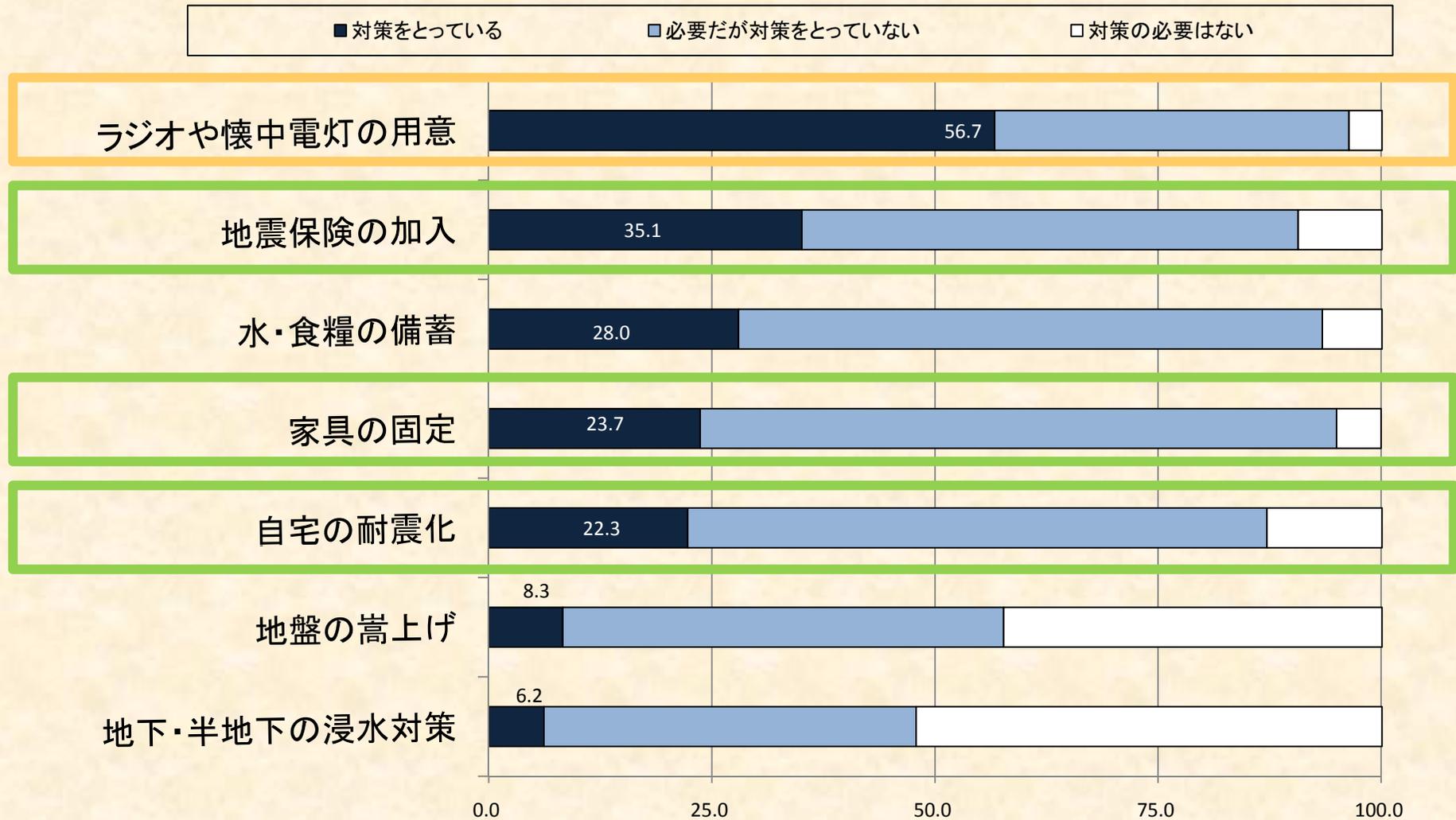
(国土交通省／東京都との共同調査)

半地下建築物の4割以上が水害のことは
考えて設計(選択)していない。



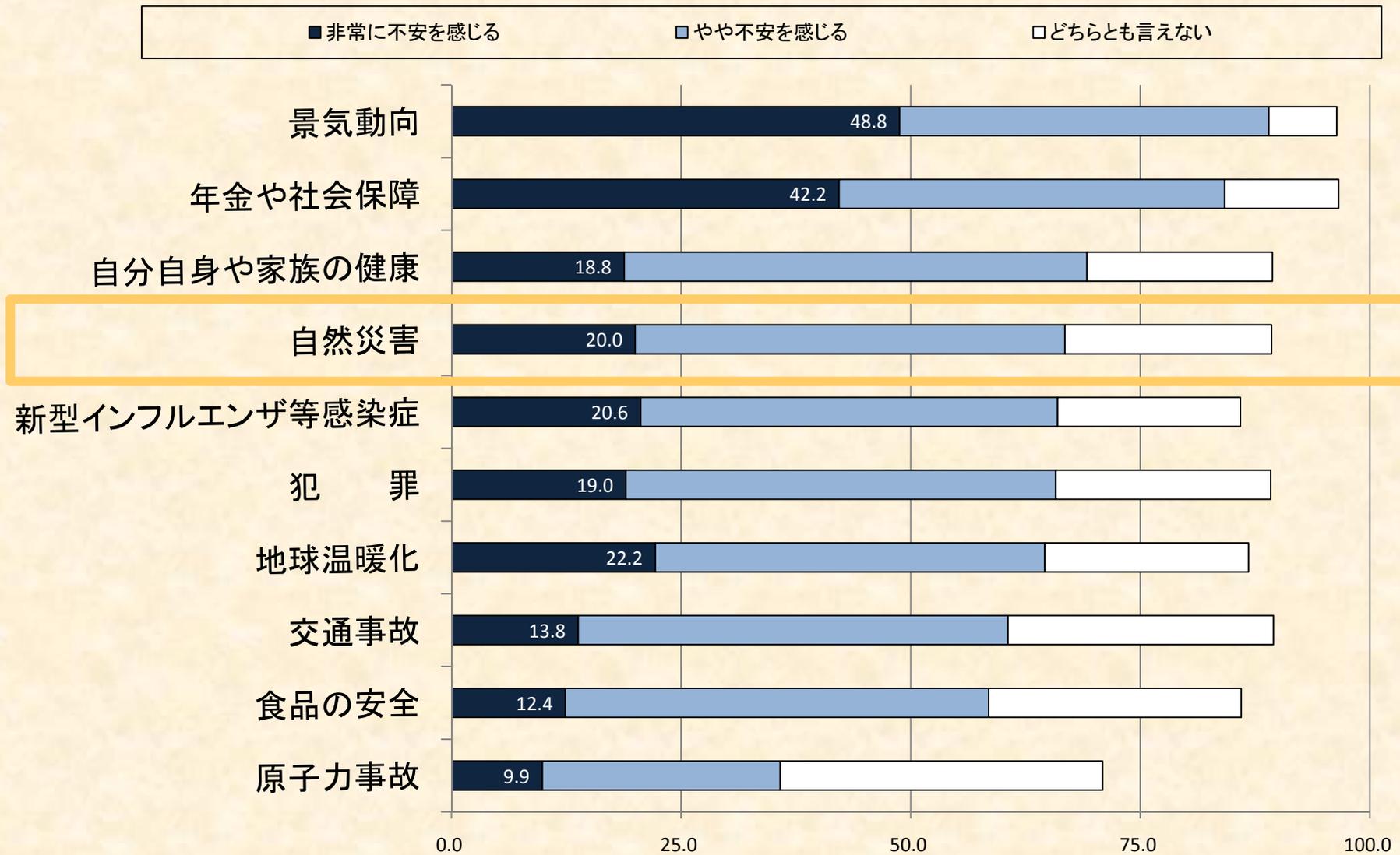
(国土交通省／東京都との共同調査)

自然災害に備えての対策



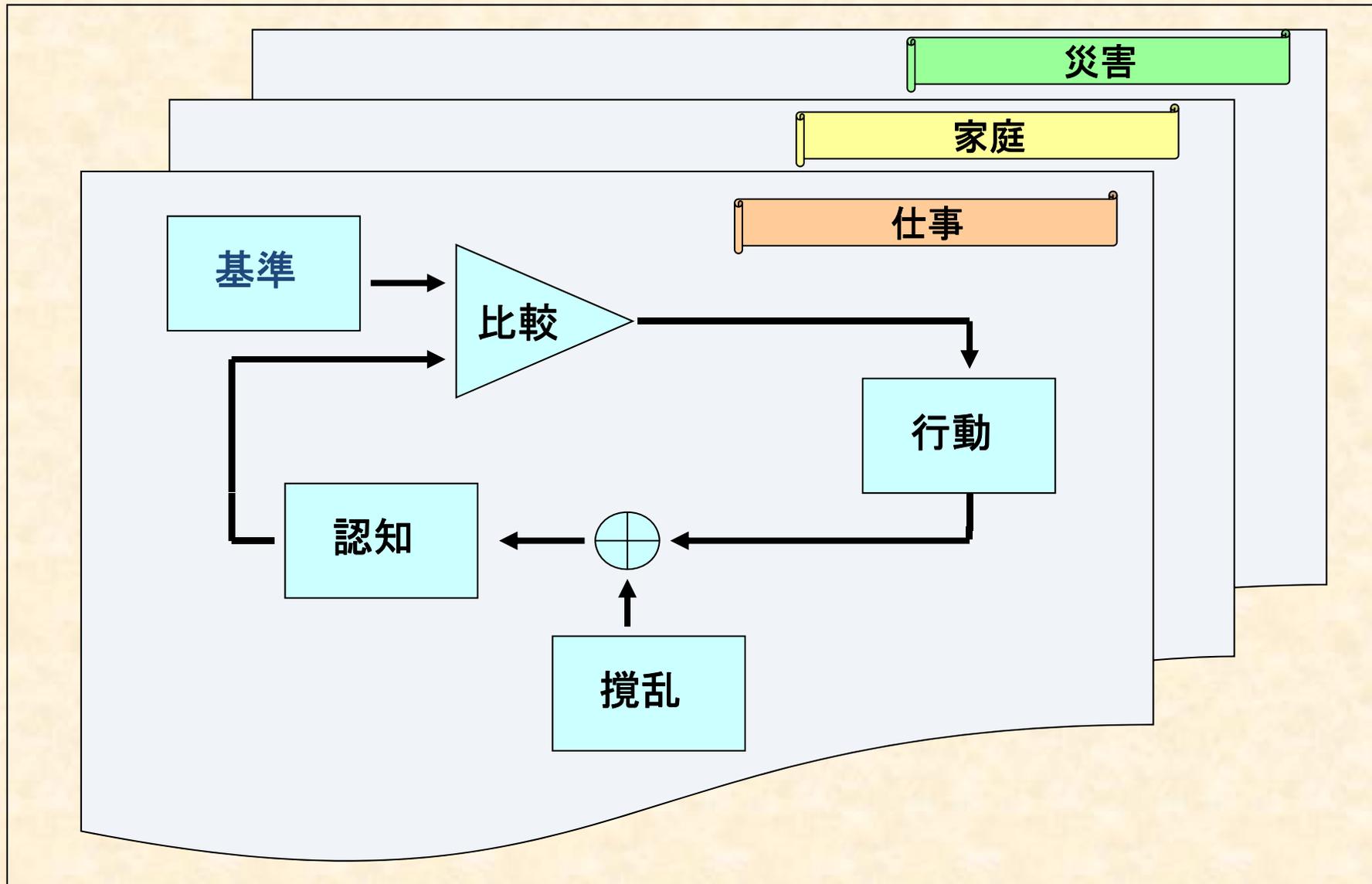
CIDIR調査、2009

日常生活の中で感じる不安

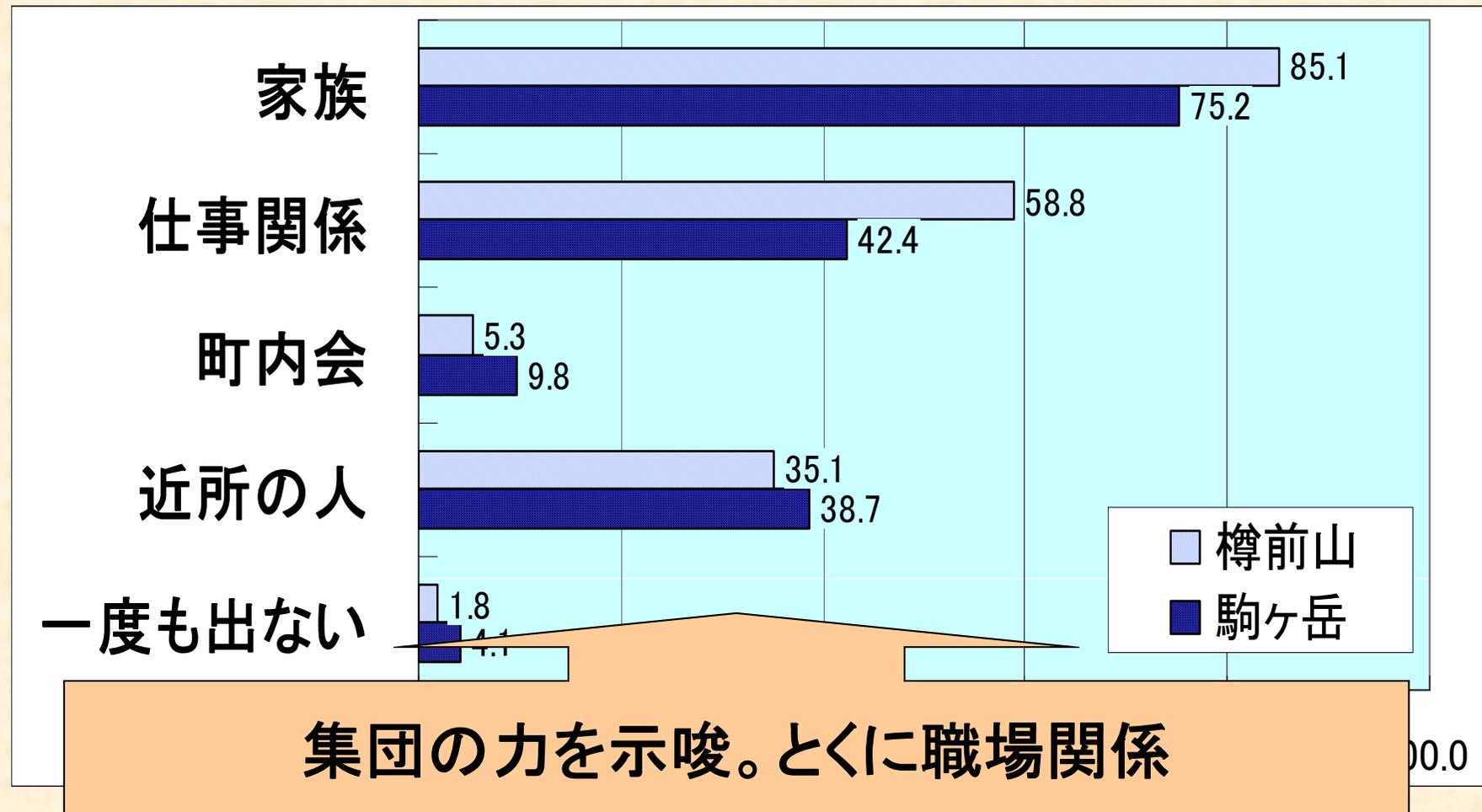


CIDIR調査、2009

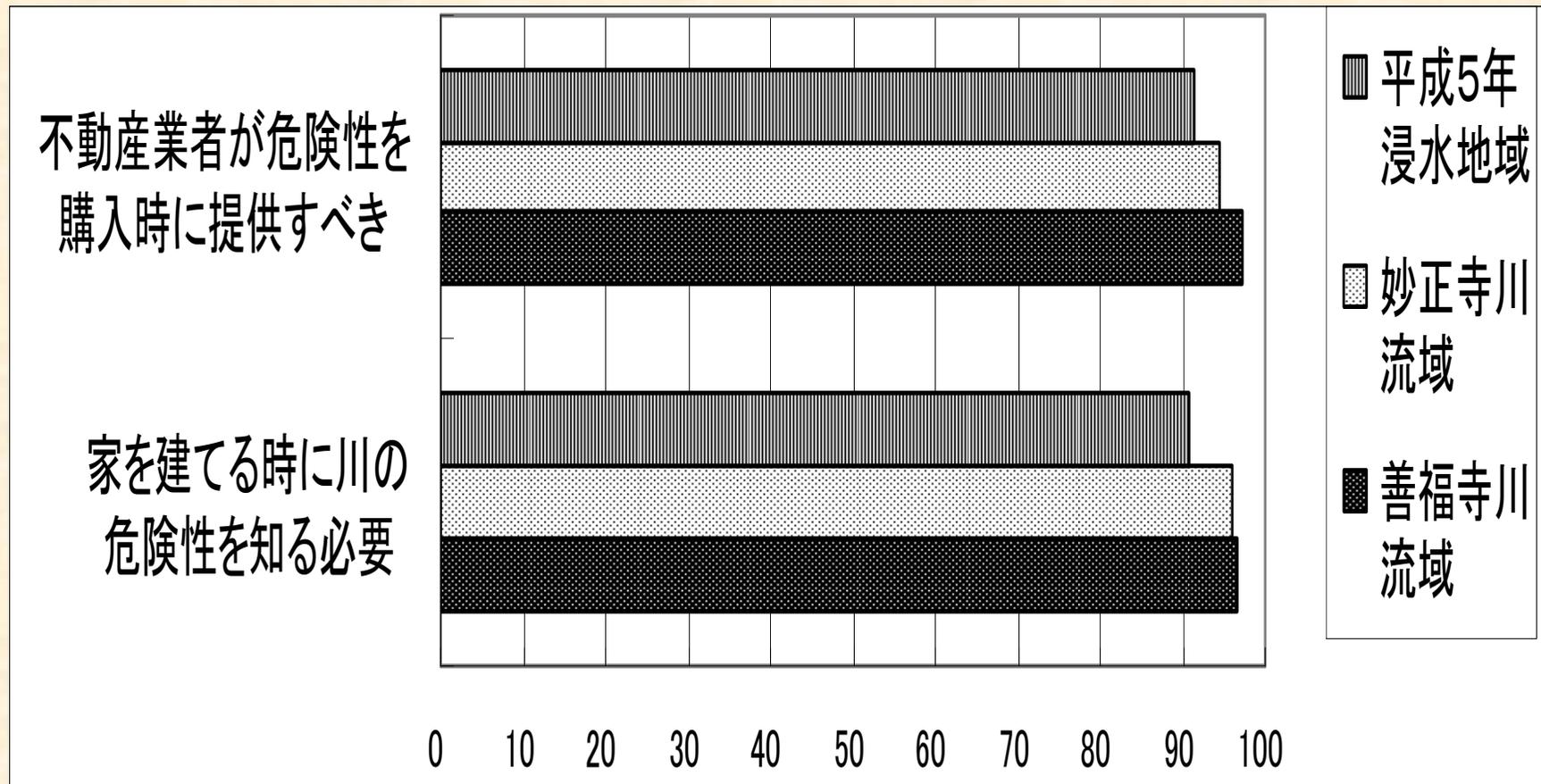
毎日の課題



有珠山噴火の話し



タイミングが重要



(国土交通省／東京都との共同調査)

耐震補強が進まない

「危険性を伝えても、耐震補強をしない」



実態：(1)関心のない層が聞かない
(2)行動に結びつかない



・行動へと結び付ける情報提供とは

規範、タイミング

なぜ、行動に結びつかない

◎緊急時の情報:

- ・伝わっていない
- ・わかりにくい
- ・知識が蓄積されにくい

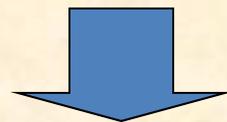
◎事前の情報:

- ・タイミングが悪い
- ・多くの問題の中のひとつ
- ・災害イメージがわからない

情報の送り手にも受け手にも問題

求められる創造力

- 停電すると、電車が止まると何が困るか・・・
揺れの被害、浸水の被害だけではない。
- 自宅の居間、風呂場、職場、よく行く店・・・
場所によって、必要な情報も対応も異なる
- 1週間、1月、半年、1年、3年、5年、10年
長期の状況と対応を考える必要がある



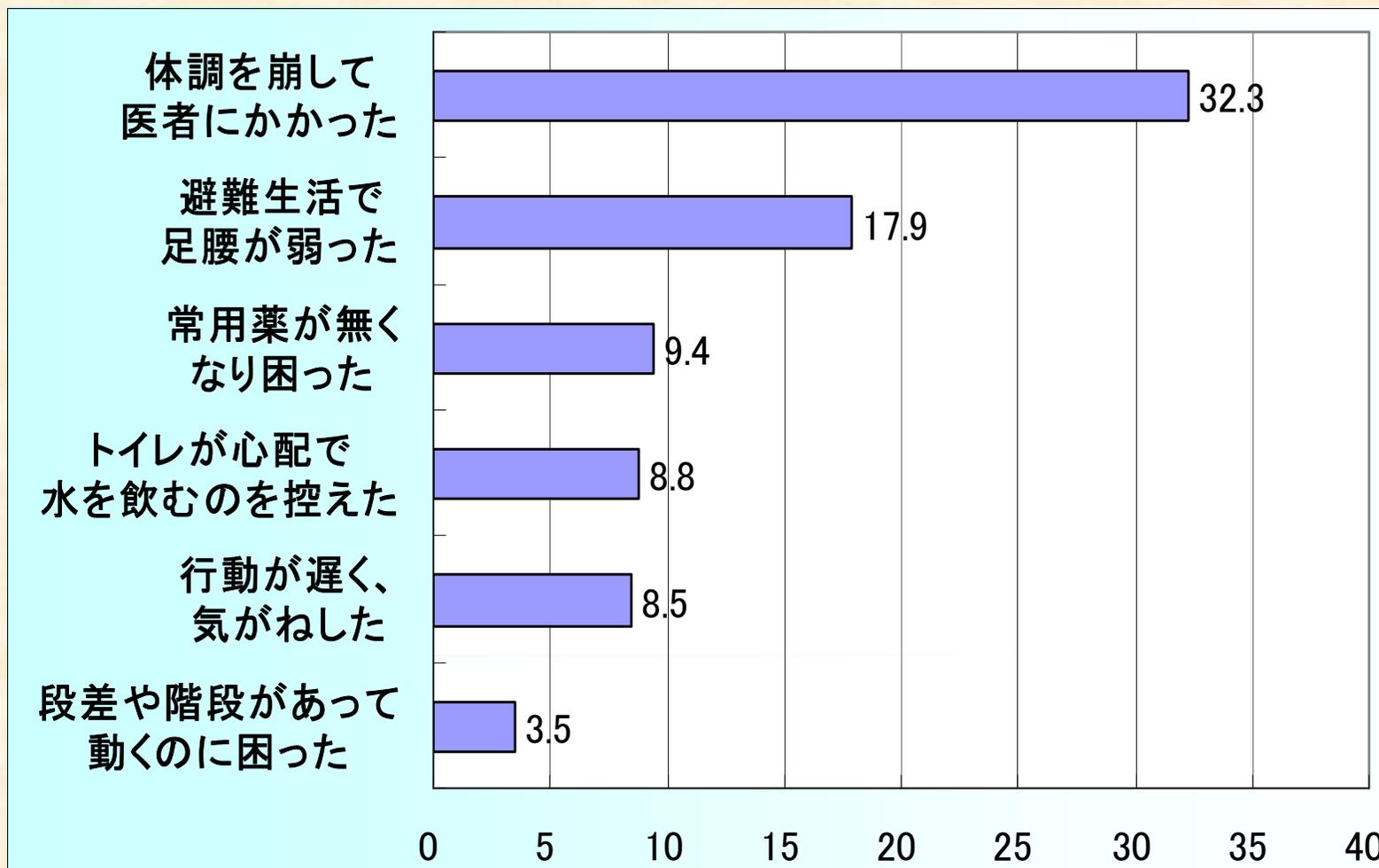
産業カレンダーによる創造力
多様性と長期的視点

中越地震では関連死が過半数

- 総計＝40名が死亡(11月3日で)
- 直接死＝18名
 - 乳幼児・小学生＝6名／65歳以上＝6名
- 関連死＝22名(55%)
 - 65歳以上＝16名(73%)

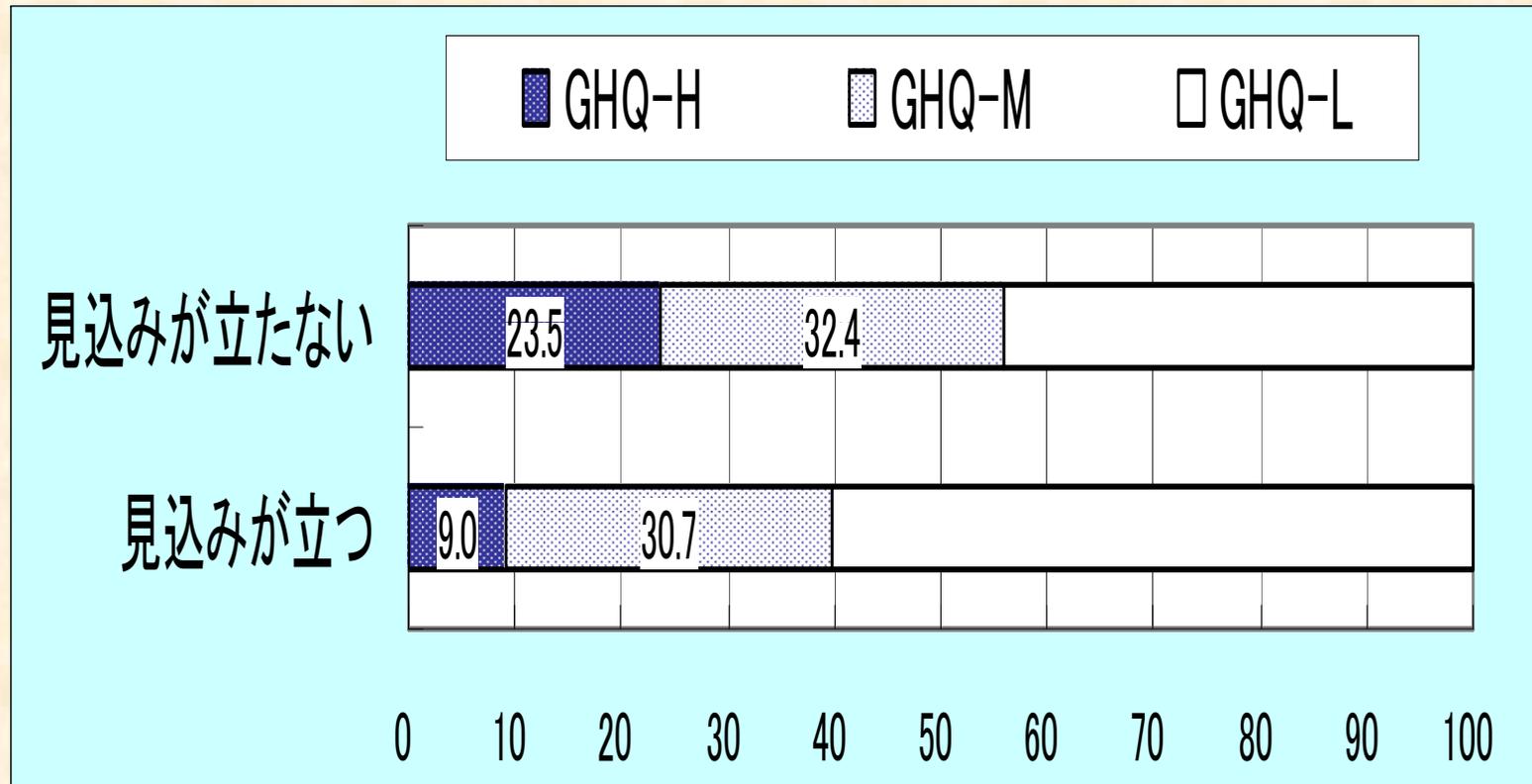
見過ごされがちだが、被災生活を通じて
災害弱者の犠牲が生じていたのである。

避難生活で



内閣府 新潟県中越地震調査による

精神的健康状態 (GHQ)



生活基盤を奪う

災害は自宅という生活基盤を奪う。

- 私は明治生まれの87才です。地震で家も何もなくなりました。今は仮設住宅で細々と暮らしています。

失職した人、主たる家計者を失った人は、再建はおろか、日々の生活にすら困ることになる。

- 自宅兼用で一人でお好み焼き屋をしていたが、2～3時間後に火の手が廻り全焼した。
- 自宅は全壊。仕事場は助かったが倒産してしまった。

心身機能の低下

負傷や心的影響といった心身状態の低下を伴う。

- 地震3日後、病院のベッドの上で気がついた。左肩を柱が直撃、大腿部が骨盤から突き出ていた。現在も治療、リハビリ中で、働けない。
- 震災・病気でがたがた。薬を6種類飲んでいる。
- 震災以来、糖尿病で薬を飲んでいるが、アルバイトなので社会保険もなく国保の3割負担となる。病気の事は勤め先に言っていない...クビになると困るし...

人間関係を損なう

肉親を亡くした人の喪失感、支え合うはずの家族関係が気まずいものへとになってしまう事例も。

- 震災で、母・息子をみんな亡くした。一人でいたら、何も考えずボーっとするだけ。誰か来てくれたら何をしゃべったらいいか判らない。1からしゃべらなければいけない。母のことをしゃべらなければいけない。それが辛い。
- 震災以降、親子、兄弟が不仲になったとよく聞くが、私のところもそうだった。でも、自分にはそうなった心当たりがまったくない。

コミュニティの崩壊

孤独感を募らせ、自尊心をも失っていく。

- 仮設に来てからはそれほど親しい人もなく暑さもあってあまり出歩くこともない。皆さん、どうぞ助けて下さい。
- 公営住宅へ友人が転出していき、「孤独死」を身近なこととして感じてしまう日がある。
- 自分が生きとつても死んどつても、誰も喜び悲しみもせえへんと思うから酒に溺れる様になってしまうんや。

置いて行かれ、冷たい視線を

- 時間が経過するにつれ、取り残された被災者への目は厳しくなる。
- 無料パスを使うと、運転手に嫌味を言われる。人間の尊厳を踏みにじられるような気が...
- 震災直後、友人の家を転々としている時、「ルンペン扱い」された。
- 「私ら税金払ってしんどい思いしてるのに、仮設の人は出たら支援金はもらえるし、安い家賃で新築の公営に住める。ええなあ」と.....。

災害情報で命を救うために

- 災害は一瞬、被害は一生
- 災害から命を救うことはできる。
- 事前対策が本質的。
- 緊急時にできることは限られる。
- 行動と結びついた情報理解が必要。
- 災害環境を知っておく必要がある。
- 具体的な行動を考えておく必要がある。